

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人正岡正延の上告趣意は、事実誤認の主張にとどまり、刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また、記録を調べても、原判決挙示の各証拠を総合すれば、原判示の事実を認めることができるのであつて、所論の如き証拠の曲解等の疑はない。即ち、同四一一条を適用すべき場合にも当たらない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号により主文のとおり決定する。

この決定は、裁判官全員一致の意見である。

昭和三〇年一〇月一二日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	栗	山	茂
裁判官	藤	田	八 郎
裁判官	谷	村	唯 一 郎
裁判官	池	田	克

裁判官小谷勝重は出張につき記名押印することができない。

裁判長裁判官	栗	山	茂
--------	---	---	---